

安全衛生 あれこれ

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

素敵な書籍との出会い ～安全週間の準備期間も始まった～

全国安全週間の準備期間が始まりました。熱中症の新たな基準も6月から施行されました。行政情報の収集に努め準備したいです。

さて、先日素敵な書籍に出会いました。友人にもプレゼントしようと某大型書店に立ち寄った時のことでした。当該本が見つからず、店員に尋ねるため周囲を見回すと、遠めの書棚の奥に店員らしき男性がいました。彼は黒いバッグに数冊の本

圧が急上昇しました。

このような時、皆さんはどうされますか？ 友人にも聞いてみました。

1、お店の問題であるので、知らぬふりをする。
2、優しくたしなめ、買ってあげる（こうありたい）。

3、「万引きだ」と大声を出し、捕まえる。

4、スマホで録画し証拠を店員に渡す。

5、店員がいるレジに行き相談する。
等の意見でした。

私は結局5番としました。レジカウンターに行き、事情を説明し店員を現場に連れて行くと、例の男が速足で店を出るところでした。店員に「彼です」と言いましたが、店員さんも私も再びフリーズしていました。もしバックに本が入っていないかったら、人を不当に疑ってと言われます。慎重になりました。また暴力事件に悪化することもある

ります。その場合、店員さんは速やかに労災補償されるでしょうが、私への補償は難しいと思いました。

今後、このような場面に遭遇した場合は、本を探すふりをして「店員さん」と少し大きめな声を出し、万引きを思い留まらせる程度が適切と考えました。

その後の私ですが、疲れ果ててしまい買い物もせずに書店を出ていました。後日出直しです。

その買いそびれた書籍を紹介しましょう。それは『「死後生」を生きる人生は死では終わらない』柳田邦男著（文藝春秋刊）です。著者の柳田先生は著名なノンフィクション作家で、我が家にも先生の著書が十数冊あります。労働災害防止に関する作品も多く、よく学ばせていただきました。本書による「死後

生」は先生が名付けました。人は死によって肉体を失っても、その人の想いや愛や言葉や行為は、遺された者の心の中で生き続けます。これが「死後生」です。出版社によるPRコメントは『本書は「生と死」というテーマに、半世紀あまり取り組んできた柳田さんの集大成的アンソロジーです。死とは何か。逝く人、遺される人、誰もが避けることのできない死とどう向き合えばいいのか。そして「生きる」とはどういうことなのか。この本との出会いが、人生や死に対するあなたの見方を大きく変えてくれるかも知れません』としています。

心が揺さぶられる内容で、読書にパワーが要りますが皆様にもお勧めします。ただし、くれぐれも書店では万引き犯ではなく本書を見つけてください。